

公民館運営審議会 会議概要

1	審議会名	令和4年度 第2回安曇野市公民館運営審議会
2	日時	令和4年11月14日 午後1時30分から
3	会場	安曇野市役所 大会議室
4	出席者	羽重会長、高橋副会長、安藤委員、中澤委員、神谷委員、望月芳雄委員、 中田委員、鈴木委員、青柳委員、一志委員、望月みどり委員
5	市側出席者	橋渡教育長、中央公民館深澤館長、豊科公民館鈴木館長、 穂高公民館早川館長、三郷公民館藤松館長、堀金公民館山田館長、 明科公民館安井館長、中央公民館遠藤主事、吉田主事、金井主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和4年11月18日

協議事項等

会議の概要

- 1 開 会 高橋副会長
- 2 あいさつ 羽重会長、橋渡教育長
- 3 協議事項
(1) 令和5年度公民館事業計画（案）について
(2) 第2次安曇野市生涯学習課推進計画の改訂について
- 4 そ の 他
- 5 閉 会 高橋副会長

協議事項

- (1) 令和5年度公民館事業計画（案）について（説明：各公民館長）

【委員】

YouTubeに講座をアップロードするのは大変良いが、周知徹底はどの程度行うのか。広報やTwitterで行うのか。若者にはTwitterの方が良いと思われるが、認識している団体ではあまりTwitterをやっている人がいない。5分館連携ということだが、どのように考えているのか。

【事務局】

オンライン講座については明科旧国鉄廃線敷の紹介、安曇野市出身のバレーボール元日本代表の浅野選手の紹介、明科公民館の料理教室等をHPにて紹介。Twitterにも投稿している。もっと多くの方に見ただけできるよう、広く周知を図れる方法を検討していく。

【委員】

地域づくりという公民館の大きな目的を見たとき、1年に1回は地域の皆さんが集まれる事業を行えばと思う。納涼祭が中止になってしまえば、穂高地域の皆さんの集まる機会がなくなってしまう。今ある事業を時代に即した形に変え、地域の皆さんと工夫をしながら事業を継続させていければと思う。

穂高公民館では3年間続けて係長が毎年変わっている。公民館の仕事は多岐にわたり、1年かけて仕事を覚えていくので、2年目を迎える前に人が変わってしまうと仕事が回らなくなってしまう。少なくとも2年は異動せずに同じ人が担当するようにしてほしい。

【事務局】

一堂に会する機会は大切である。納涼祭は内容を変更して開催することを検討している。

職員の関係については、このような意見を公運審にていただいたということ、上の方に伝える。

【委員】

コロナの影響で交流学習施設も人を集めることができない。各公民館は交流学習施設と隣接または同一の施設内にあるので、お互いに情報を交換し合いながら共に活動していければと思う。図書館ではお出かけ図書館ということで、他施設の講習会や公民館の講座等が開催された際に本を持って図書館外へお出かけ、貸し出しを行った。また、明科うまいもん市にて図書館リサイクルフェアを開催しているということを、チラシに小さく掲載して配布していた。そのような小さな工夫で、例年より3倍ほどの人が参加されていた。公民館や交流学習施設だけでなく、お互いに連携することで様々な施設にて人集めをすることができるのではと感じた。

【事務局】

豊科公民館は郷土博物館と敷地が隣接している。令和3年度から郷土博物館の企画展に合わせて講座を開講している。講座後に企画展へ行き、解説を聞きながら見学をした。今後は豊科近代美術館等とも連携して講座を開講していきたい。

【委員】

堀金では文化祭をどうにかして開催したいと考えていた。実行委員会を作り、公民館のサポート委員会、芸術文化協会の協力により、コロナ禍においても開催できた。文化祭の片付けが終わった際に、「一本締めをしましょう」という高橋さんの声掛けの下、地区の皆さんと一本締めをしたことで心が1つになり、人が集まって何か1つのことを行うのは良いことだと思った。スポーツ大会やお祭りは開催が難しいが、みんながやりたいことではないのか。時代に対応した工夫と言われるが、どのような対応が良いのか判断が難しいと感じている。

【委員】

文化祭は一志さんが実行委員長として引っ張ってってくれた。私は芸術文化協会の会長として、一緒に準備をした。公民館長の計らいで多くの方の協力を得ることができ、会場作りや片付け等を行うことができた。最後に来年も頑張りましょうと一本締めをしたことで全員の心が1つになり、来年の希望も見えた。

【委員】

来年度の公民館大会の講師等は決まっているのか。

【事務局】

公民館大会の講師は検討中である。

【委員】

是非、いつ災害が起きるか分からないので防災関連の講演会をしてほしい。また、人集めについて等公民館活動についての勉強もしたい。

(2) 第2次安曇野市生涯学習課推進計画の改訂について(説明:中央公民館遠藤主事)

【委員】

安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり条例はとても素晴らしい。ぜひ具体的な施策を実施して欲しい。安曇野市の具体的な数字は不明だが、引きこもり、不登校、自殺が社会的課題である。未成年の自殺は長野県が全国トップクラスで青年の自殺も上位である。引きこもりの人数も多く、小学校の不登校の人数は全国3位であり、80歳の方が50歳の子どもを年金で面倒を見るという課題もある。生涯学習課として、教育委員会としてこの問題をどのように捉えているのか。また、生涯学習課の施策として他の部署とどのように連携して具体的に何を考えていくのか。担当の方はもちろん、担当以外の方や教育長の考えを教えてください。

【事務局】

安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり条例を作るだけでなく、どのように具体的な施策にしていくかが大切である。現在、庁内で具体的な推進計画の策定に向けた検討を進めている。全庁を挙げて全ての部署が共に関わりながら、様々な課題について対応できるよう話し合っている。全ての世帯で一人も取り残さないといった姿勢を大事にしていきたい。

【委員】

一人も取り残さないということは大事である。それを実現するために生涯学習課があると思うので、形だけではなく末端の一人も取り残さないということを実現する活動をしてほしい。

【委員】

安曇野市で芸術公演ができるホールは、豊科公民館のみである。体育館はできたが市民芸術館のような大きなホールが安曇野市にはないので、作成して欲しい。ホール作成についての構想は総合計画の中で決まってくると思われるが、予定があれば教えていただきたい。

【事務局】

現在、作成の予定はない。また、施設の運用の工夫により満足度を高められる余地は十分にあるため、既存の施設の活用を図ることが大切ではと考えている。

【委員】

既存の施設の中での工夫も必要だが、芸術公演を開くことができる素晴らしいホールが欲しいという要望を頂いたので、ホール作成についても検討していただきたい。

【委員】

生涯学習課には2～3年専従できる方を置いて、しっかりと計画を進めていただきたい。

【事務局】

専従の確約は難しいが、ご意見として承らせていただく。